研究会活動報告

循環器被曝低減技術セミナーの紹介

循環器画像技術研究会
昭和大学病院　　加　藤　京　一

「貴殿のユニークで楽しい紹介文をよろしくお願いします。」全循からの依頼文である。私だけに加えられた一文なのであろうか。いつも結婚式のスピーチを頼まれるときと全く同じである。上司として、先輩として、ビシッといきたくても依頼者側はこちらの気持ちなんてどうでも良いのである。とりあえず今回も不本意ながら、生真面目なこの性格を曲げその要請に応えるべく一筆啓上したい。

循研の定例会で、全循編集担当（ＮＴＴ関東病院：塚本篤子女史）から、そっと水色の封筒を渡された。笑顔である。イヤな予感がした。「この前言ったじゃない、執筆依頼。」完全に忘れていた。結構何でも安請け合いしてしまうのが私のいけないところで、またきっと飲んだ勢いで「オッケー！オッケー！」を連発していたに違いない。おまけによく話を聞いていない。後悔先に立たず。良い言葉である。「結構忙しいんです、こう見えても。今、息をつくヒマもない程なんですよ。定例会での教育講演がやっと終わって、来週は国際放射線防護学会ですよ。それが終われば病院では係長・主任研修会、主任補佐研修会のお世話もしなきゃなんなくて･･･ほら、他にも頼まれてる執筆が三つも････。」笑顔である。許してくれそうもない。締め切りはまだまだ先だという言葉に、ついに受け取ってしまった。

循研の被ばく管理委員会発足時も同様であった。遡れば３年前、夏期セミナーで会長をはじめとする優しい先輩方から「○田、○島、加藤で何かワーキンググループを作れ。」と命を受けた。○島、加藤は協定を結び、○田先輩を長としてそのお手伝いをさせていただこう、と画策した。うまく逃げれるハズだった。が、○田先輩が逃げた。流石である。とたん、○島が言った。「京ちゃんのためなら何でもする。」太い眉毛をピクつかせ、ズルいぞ、後輩!!笑うな、なつくな!!　結局、会長からの指導もあって、「循環器画像技術研究会　被ばく管理委員会」を発足させ、「放射線被ばく低減技術セミナー」開講に向け取り組むことになった。そうです、私が委員長で。決まったからには、皆さんのご協力とご声援を受け、またご指導していただき、超微力ながら頑張ってみるかと「俺と一緒にいい仕事しない？」と若手のホープ達を底なし沼（同意語はアリ地獄、蜘蛛の巣：もう決して逃れられないの意）へと誘った。もう離さないぜ。これで君たちは着実に循研幹事の道を歩んでいくのである。本人の意思とは全く関係なく次々に仕事が与えられる、すばらしい研究会、幹事会である。
さぁ、そんな前途揚々な委員の紹介である。

被ばく管理委員会

田島　　修：埼玉県循環器呼吸器病センター
「循環器装置における被ばく低減技術について」
久保　淳子：石心会狭山病院
「防護具における被ばく低減技術について」
中村　公行：東京都立荏原病院
「線量測定について」
中谷　　麗：東京逓信病院
「症例について」
加藤　京一：昭和大学病院
「ＱＣ・ＱＡについて」

このメンバーで、約２年の歳月をかけ文献や資料の検索、調査、また測定など行い、セミナーに使用するテキスト（約60頁）を作成した。そしてようやく昨年（平成11年11月６日）、「第１

回循環器放射線被ばく低減技術セミナー」を開講する運びとなった。当日のプログラムは、午前中講師の先生を２名招いて講演をお願いし、午後からは、被ばく管理委員会の講義とした。慈恵医大の関根広先生には「人体に対する生物学的効果」、自治医大ＲＩセンター菊池透先生には「ＩＣＲＰ・ＩＡＥＡの考え方と放射線技師の役割」について講演いただき、参加者からも好評を得た。

さて、我々であるが。はたして、当然である。上出来。何回練習したことか。練習中、思ったようにうまくいかなくて、うるうるしていた彼女。立派です。もうどこでも講義できるよ。何とも頼もしい仲間達。施設がバラバラであるために、なかなか揃って集まることもできなかったが、日常業務でさえ皆忙しいのに、何とか終わらせて駆けつけてくれた。中には片道２時間もかけて打ち合わせに参加してくれた委員も。本当に頭がさがる思いである。会議のあとは当然、反省会？である。反省しすぎて、途中下車を強いられたものもいたらしい。田島君！あんなに飲んで、終電に間に合わないからって、走っちゃダメだよ。せっかくご馳走したのに、もったいない。

こんな幾多の困難を乗り越えて、何とかセミナーも無事終了となった。気になるところは、参加された皆さんの声。厳しい意見も真摯に受け止めましょう。とはいうものの、やはり参加して良かったといっていただければこんなに嬉しいことはない。プロセスも大事だが、やはり結果である。恐る恐るアンケートをみた。

１．講義内容に関して興味が持てたか？
　大変興味が持てた、96％。
　興味が持てた、４％。
２．本日の講義内容についての理解は？
　十分理解できた、25％。
　ほぼ理解できた、63％。
　どちらとも、８％。
　やや理解できなかった、４％。
３．業務で活用できる内容か？
　かなり活用できる、40％。
　ほぼ活用できる、54％。
　どちらとも、６％。
４．内容は満足できたか？
　十分満足、３６％。
　ほぼ満足、５４％。
　普通、７％。
　やや不十分、３％。

であった。この結果を馬鹿正直に信じるならば、「大変良くできました」が書かれた金太郎のゴム印を５回ぐらい押された学生のレポートに匹敵する。これには各委員もホッと胸をなでおろした。また、多くの方から意見を頂き、もう少しここを工夫したら、ここの説明はもう少し詳しく、といった声もあり本当に有り難かった。さらに、「定期的に」「第２回の開催を」と、このセミナーの開催を応援して下さるご意見を頂きとてもｈａｐｐｙな気分となった。任務を終えた隊員達は、大きな満足感と安堵感を胸にそれぞれの生活に戻るのである。

「いやー、ご苦労さん。」「みんな頑張ったなー。」「しばらくゆっくりしような。」　幸せと不幸せは背中合わせである。会長はこの委員会の委員長と副委員長の性格や行動を奥さんよりも見抜いているかのようである。いや、きっとそうだ。違いない。僕達って本当にいわれなきゃ動かないんです。とりあえずこれで一応終わったねって。

そして会長からミッションが届いた。「テキストのバージョンアップを７月の定例会までに完成させよ。決戦は９月２日。」
「田島!! もう第２回被ばくセミナーの日程決まっちゃってる!!」「えっ？」
こんな時は笑うに限る。エへへへへ。
笑ってる場合じゃない。早速メール打たなきゃ。
「被ばく管理委員会会議、今度の水曜日行います。」発信。「えっ？」返信。きっとみんな「えへへへへ。」だと思う。

この文章が皆様の目にとまる頃には、きっと「国際放射線防護学会」も「第２回被ばく低減技術セミナー」も終わりホッとしているだろう。でも、その頃にはきっと第３回の日程決まっちゃってるってことは予想がつくよね、田島君。
だからいったでしょう。もう逃げられないんだから。腹括って頑張ろうな、みんな。